

2020

ANNUAL REPORT

— 2020年度 年次報告 —



女性や子どもが自分らしくのびのびと
生きることができる社会を目指して

認定NPO法人 女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ
〒650-0022 神戸市中央区元町通6-7-9 秋毎ビル1階
(特) 市民活動センター神戸気付
TEL・FAX 078-734-1308
E-mail: womens-net-kobe@nifty.com
<http://wn-kobe.or.jp/>
2021年7月発行

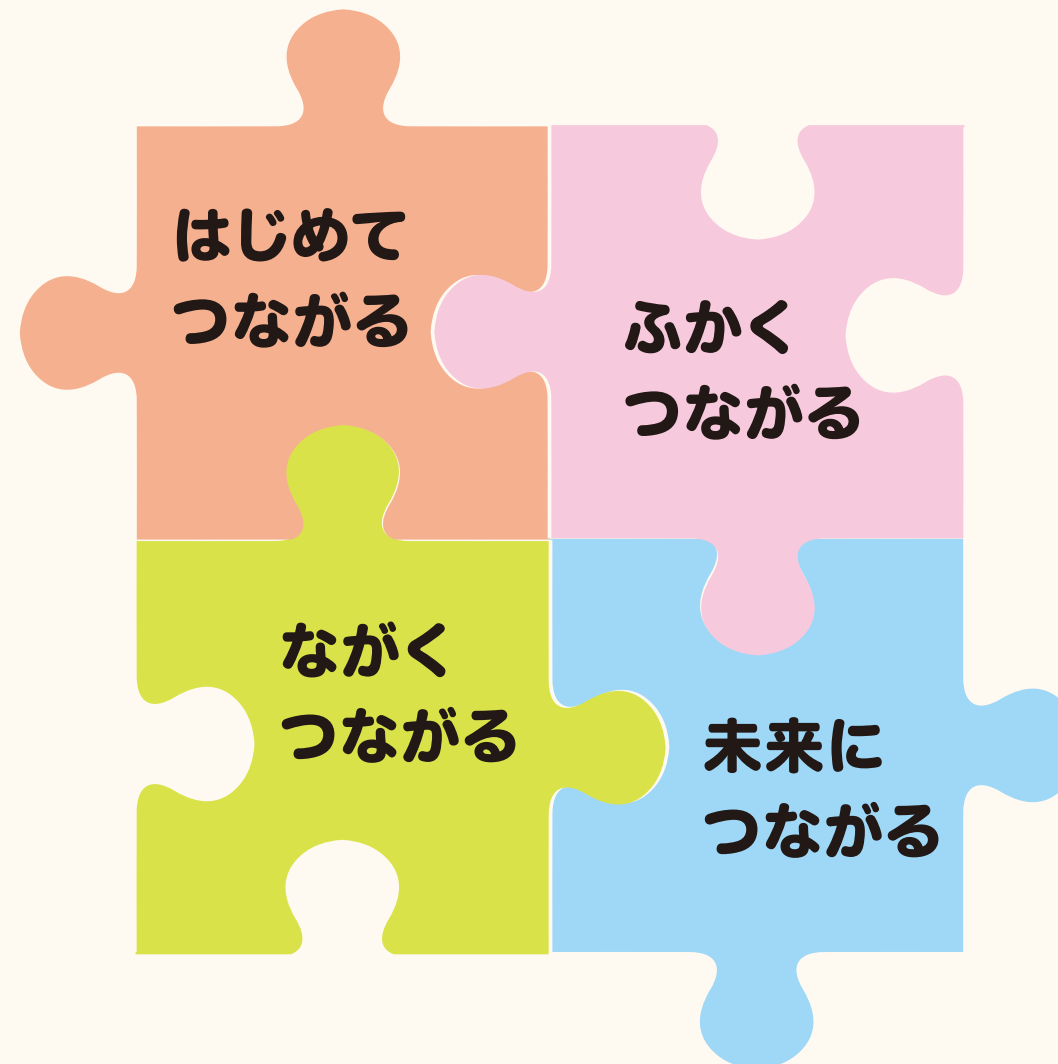
認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ



つながる～ウィメンズネット・こうべの 伴走型支援～

はじめてつながる…P3-4

- 電話相談
- メール相談
- 面接相談



ながくつながる

- WACCA ｂ…P9
- WACCA+…P10

ふかくつながる

- ともだちの家…P5
(シェルター)
- ステップハウス…P6
- 同行支援…P7
- 家庭訪問支援
- 居住支援…P8

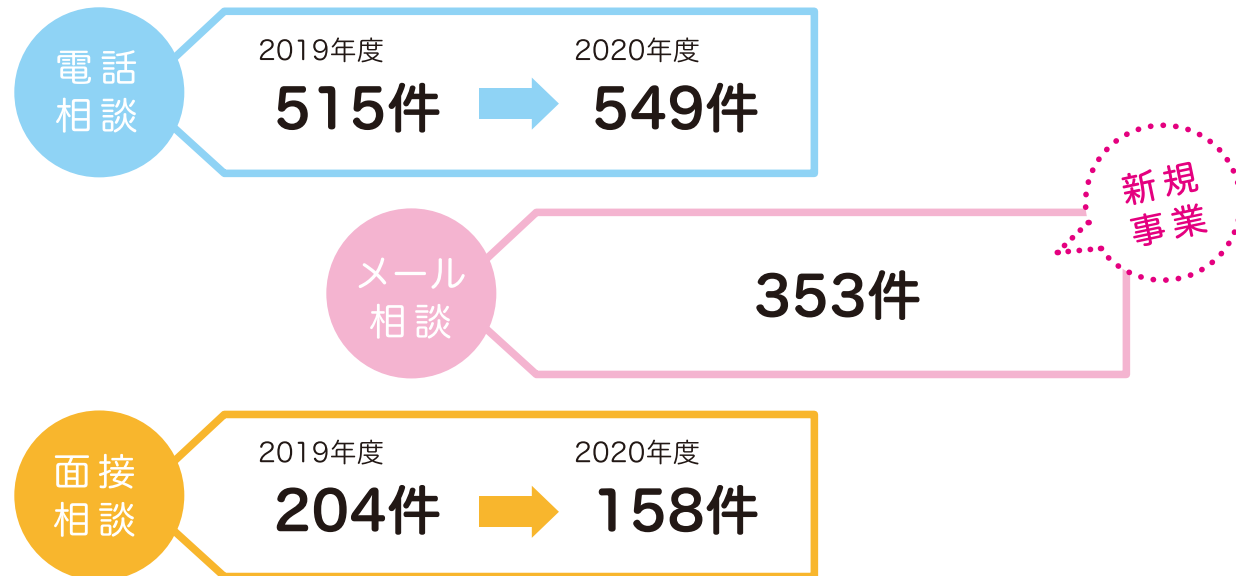
未来につながる

- WACCA 塾…P11
- デートDV防止授業…P12

相談事業

DVの被害を受けている方を始め、パートナーの言動に不安を感じている方からのご相談を受け付けています。
2020年度は従来の電話相談、面接相談に加え、メール相談も開設いたしました。

2020年度実績



新型コロナウイルス感染症によるステイホームの影響で、面接相談の件数は前年度より減少しました。しかし新規事業のメール相談では当初の予想よりも多くの相談を受けました。

相談内容 ※電話相談記録より抜粋

暴力・虐待	家族のこと	その他
● DV (身体的、精神的、経済的、性的、コントロール・束縛) ● 親族からの虐待 ● 恋人からの暴力 ● 性暴力 ● ストーカー ● 過去の暴力・虐待のトラウマ ● シェルターに入所したい	● 離婚・別居したい ● 家を出たい、転居したい ● 夫との生活がしんどい ● 親の病気 ● 親の介護 ● 親族との関係 ● 子育て ● 居場所がない	● さみしくて辛い ● 一人で悲しい ● 話す人がいない ● 調子が悪い ● どうすればいいかわからない ● 悩みを聞いてほしい ● 色々しんどい ● 法律相談

ウィメンズネット・こうべが受ける相談内容は、DV問題だけでなく、孤立・孤独のこと、居住支援のことなど、非常に多岐に渡っています。また、DV相談に関しては、よく言われる身体的暴力だけでなく精神的・経済的暴力というような目に見えにくい暴力についての相談もよく受けます。しかし現在の法律では身体的暴力だけがDVとみなされることが多く、現状とかなりズレがあることがわかります。

ご利用者の声



相談の様子。専門スタッフが対応し、秘密は固く守られます。

Aさん

短時間でも頭の中のごちゃごちゃしたところが話して書き出すことで整理できたように思います。

自分のことを少し客観視できるようになりました。いろんなことをひとりで悶々と考えるより、自分のこれからの方向性を考えるのに貴重な時間になったと思いました。

Bさん

一息の長い支援のきっかけにー

ウィメンズネット・こうべへの相談の入り口は様々ですが、相談者のお話を伺っていると、DVとは何なのかという情報がないこと、そして様々な暴力を受けることで相談者が信頼する力(人への信頼、自分への信頼、社会への信頼)を奪われていることを実感します。そのため、相談になかなか繋がらず、避難までに長い時間がかかったケースも少なくありません。事実、相談者の中にも、ウィメンズネット・こうべに相談して初めて「あなたは悪くない」と言われ自身のDV被害に気付いたという方もおられました。

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、昨年から国もDV・性暴力相談に力を入れています。情報が多く発信されることで、相談に繋がる方も増えてきました。しかし、長期間にわたる被害からの心の回復にはやはり一息の長い支援が必要です。ウィメンズネット・こうべでは、相談を受けた方をシェルターでの短期支援に繋げたり、ステップハウスやWACCAといった中長期支援に繋げたりと、相談だけでは終わらない総合支援を行っています。そういった一息の長い支援の中でできた人との繋がりが、徐々に自分や社会への信頼を回復させていくのだと事業を通して実感します。

DV・性暴力被害者サポートライン

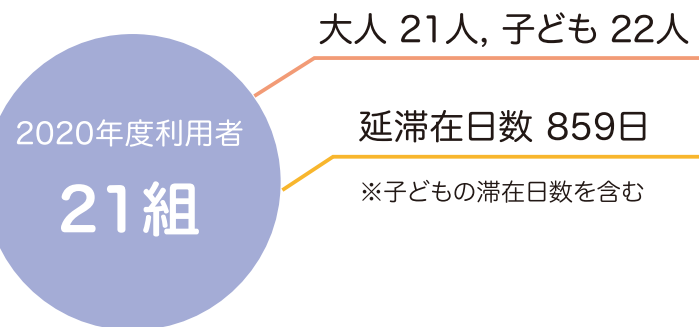
- 電話相談
078-731-0324
月・水・金 10:00~16:00
- 面接相談
要予約:1時間1,000円(応相談)
予約電話番号:078-731-0324
- メール相談
womens-soudan@mbr.nifty.com

WACCA+(ぷらす)相談

- オープンダイアログ@WACCA
第1第3金曜日
①10:00 ②11:00 ③13:00 ④14:00
- 女性の悩み相談
第2第4金曜日 ①13:00 ②14:00 ③15:00
- 無料法律相談
第3土曜日 ①13:00 ②14:00 ③15:00
お申込み先:078-798-6150

ともだちの家

女性や子どものための緊急避難施設（シェルター）を運営しています。また、新規事業としてステップハウスも開設いたしました。



—エンパワメント・シェルターをめざして—

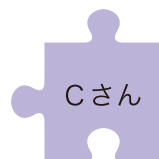
2021年に出た国の調査報告によれば、女性の約4人に1人がDV被害を経験しています。しかし実際に家を出るのは10人に1人程度だということを知っていますか？実家に逃げても連れ戻されたり、将来への不安や逃げたことへの罪悪感から自宅へ戻ったり...そのような過程で当事者はどんどん自信や自己決定力を失っていきます。

ウィメンズネット・こうべは2004年に民間シェルター「ともだちの家」を開設し、以降、385組の女性や母子（内、子ども438人）を保護してきました。2020年度は、一度目の緊急事態宣言の間こそ静かだったものの、5月以降はほぼ満室状態が続いています。

避難されてくる方々の状況は一人一人異なり、DVとひとくくりにしても複合的な課題が隠されていることを実感する毎日です。そういった問題を解決し未来に踏み出すためにも、シェルターは単なる一時的な住居ではなく、利用者が安心と安全を獲得し、自尊感情や自己決定力を高め、自分らしさや他者への信頼感を取り戻せる場でありたいと考えています。

「ともだちの家」は、そんなエンパワメント・シェルターを目指して、避難してきた女性や子どもの生活再建をサポートしています。

■利用者の声■



Cさん

最初の間は出てきたことが間違っていたのかな？家は大丈夫なのかと不安にかられていましたが、「間違っていないのよ！」「子どもたちを連れてきて偉い！」と言ってくださりととても心強かったです。

毎日安心してゆっくり眠れてよかったです。

Dさん



Eさん

ずっと抜け出せなかった地獄のような生活も、ここに来て振り返り、ようやく前向きになれるような気がしています。ウィメンズの様な場所は本当に必要だと思います。

ステップハウス

新規
事業

シェルターよりフレキシブルな、見守りのある中期滞在施設。現在、二か所開設しています。

2020年度実績

ステップ
ハウス1

大人4人

子ども0人

延滞在日数464日

ステップ
ハウス2

大人6人

子ども12人

延滞在日数268日



—新しい生活への第一歩—

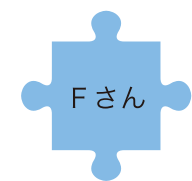
2020年、新規事業としてステップハウスを開設しました。

シェルターは一ヶ月程度の短期滞在ですが、その後の自立が困難と思われる女性や母子が、スタッフの見守りを受けながら原則6か月（最長1年間）滞在できる施設がステップハウスとなっています。シェルターと違い、通勤・通学もすることができ、新しい生活への前段階として利用されています。

ご利用者の中には、シェルターからステップハウスに入居された方もおられます。シェルターに入所されたものの、パートナーに対する恐怖が払拭できず、1人暮らしへの不安がとても大きかったのです。しかし見守りのあるステップハウスに入居され、いつでも相談できる状況が安心だったようで、しばらくすると新しい仕事を見つけられました。仕事が順調に決まったことが自信にもつながり、その後はステップハウスを出て、家を決められました。

このように支援に繋がることが、本来の相談者が持っている力を発揮できるようになっていくことを、ステップハウス利用者の方から気づくことが出来ました。

■利用者の声■



Fさん

このNPOの活動が盤石なものとなり、社会の片隅で困っている女性の方々の希望の光的な存在でありますように。



Gさん

日々、「安心感」を感じながら生活でき心身が回復しました。一度失った社会との繋がりも再び得られました。



同行支援&家庭訪問支援

同行支援

同行支援件数

196件

- 警察
- 病院
- 役所
- 年金事務所
- 弁護士事務所
- 裁判所
- ハローワーク
- 学校
- 不動産屋
- 家探し内覧
- 買い物
- 公園 etc.

同行支援の現場から

シェルターに入られた方は、急な環境の変化で不安な日々を過ごされています。

それまでの我慢、辛抱の生活から一歩踏み出された勇気を労い、安心安全な生活を見通せて次のステップに進めるように、警察署、公的機関、弁護士事務所に同行し、住居探しにも寄り添っています。スーパーマーケットなどへの買い物に同行すると、好物など食べ物の話題に笑顔がこぼれますが、過酷だった生活の状況も感じ取れます。

退所後は、地域の中で孤立しないように、訪問支援と合わせて裁判所、年金事務所、ハローワークなどにも同行しています。

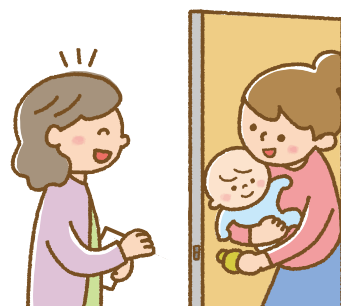
同行支援は、当事者が自信を取り戻すことができるように応援する伴走支援だと思います。

家庭訪問支援

2020年度実績

神戸市内
月2回×10世帯

兵庫県内
月1回×4世帯



—当事者を孤立させないための見守り—

各々の事情は異なりますが、生活が落ち着いた頃から、ご本人の内面的なことが意識に上がり、苦しくなれます。そんな彼女たちにきちんと寄り添えているかいつも自問自答しています。ご本人が自ら関わりの持てる場所や、基本的人権が守られる社会が広がるよう切望しています。

居住支援

シングルマザーや離婚を考えている女性のお部屋探しをしています。2019年に兵庫県居住支援法人の指定を取得し、2020年8月～2021年1月まで国土交通省より居住支援法人活動支援事業に選定されました。

2020年度実績

相談

76名

(内、DV被害女性48人)
(同居予定の児童41人)

成約

34名

支援の流れ

① メール対応



② 面談
(1時間程度)



③ 不動産業者に
物件案内を依頼



④ 内覧に同行



—当事者に安全な住居の提供を—

居住支援では、メールや電話で相談を受け付け、事務所で面談をし、転居理由や転居先、間取りなどの希望を聞いて不動産業者に繋ぎ、内覧にも同行するなど、家が見つかるまでのお手伝いをしています。

最近は親からの虐待で家を出たいという方も増えています。所持金が少なく、保証人や緊急連絡先さえ無い方も多くいらっしゃいました。同行支援は不安を抱える当事者にとって大きな支えになっています。日本の場合、DV被害女性の1割しか家を出ていません。

主な理由は、①経済的見通しがたたない、②安全な住まいが確保できない、③自分さえ我慢すれば子どもから父親を奪わないですむ、と言ったことです。

海外の例をあげると、イギリスでは1994年には、DV被害女性がSOSを出した場合、住居の提供が各自治体の責務とされています。暴力による心身への深刻な影響を考えれば、DVや親からの虐待の支援には安全な住居の確保が不可欠です。

支援事業の実態をまとめ、県や国に対して、生活保護を活用した転居や公営住宅の優先入居など、住居の確保に関する支援の充実を要望していきたいと考えています。

■利用者の声■

Hさん

気に入った住まいを見つけることができ、幸せな人生に向けて前進中。

迷うことが多く、どこに相談したらよいか分からなかった。でもやっと話を聞いてもらえて明るい気持ちになった。

Iさん

WACCA

(わっか…women and children care center)

さまざまな困難を抱える女性やシングルマザーと子どもたちの居場所、および生活再建のための中長期支援の場。

■WACCA 〆 (ふらっと)



970名

2020年度 来所者数

ひとり親の大人の学習

33回

20回

フードパントリー

—社会とつながる居場所に—

WACCA 〆は2020年6月にシングルマザーやその子どもの居場所として開設しました(神戸市補助事業)。

現在、居場所、相談、ひとり親家庭の大人の学習、フードパントリー(食料支援)の4つの柱を中心に活動しています。

2020年新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が初めて発令された時、それまでWACCAを利用していた方々がどうされているのか安否を含め「WACCAエール便」を約60世帯に発送(食料品と当時品薄だったマスク、マスクはシングルマザーの手作りと寄付で届いた物)。その後、電話やメールでの返事が届き、シングルマザーの方が置かれている状況を知る事ができました。

WACCA 〆は平日の火曜から金曜日、ふらっと立ち寄ってもらうためにいつでも窓を開けています。そのためには一歩外に出る勇気が必要かもしれませんが、フードパントリーは一歩外に出るきっかけとなり、対面でお会いする事で様子も分かり、相談がなくても些細な会話から「じつは…」と悩みや困りごとを話してくれる方も少なくありません。そういった方には「WACCA+ (ぷらす)」を紹介し専門相談、WACCA塾などを伝え、孤立をさせない、次に繋がるバトンを手渡す支援をしています。

そしてWACCA 〆が大切にしているのは、利用される方とスタッフとの関係中心から利用者同士の繋がりへとシフトしていく事で、スタッフとは違う情報交換や、そして対話をする事で気づきや他者(社会)と繋がり、次の一歩を踏み出すきっかけづくりの居場所となりつつあります。

■利用者の声■

Jさん

近所でおしゃべりする相手がいないので、WACCA さんでおしゃべりして帰っています。親子ともども癒されて元気になることができました。



フードパントリーの様子

■WACCA+ (ぷらす)

2020年度は兵庫県委託で「DV被害者等の自立に向けた中長期支援拠点事業」を2つの柱でスタートさせました。



相談

- 法律相談…24件
- 女性の悩み相談…36件
- キャリア相談…14件
- スタッフによる相談…60件
- メールLINE/電話相談…29件
- オープンダイアログ…54件(23人)
- 自助グループ…11人
- 子どもカウンセリング…10回(子ども6人)

居場所

- ボランティアの日…延107名
(軽作業などを通したウォーミングアップの活動)
- 読書会、絵本カフェ、おしゃべり会…延114名
(人が集いエンパワメントできる居場所)



図書コーナーも充実させました!

—お互いに元気になる場—

専門家による各種相談は、離婚や再就職、自分の気持ちを整理して次の一歩へと進むきっかけとなりました。また、オープンダイアログは従来の個人面談とは違い、複数で対等なかかわりを持つ対話を通して、自分自身や周りの家族、社会などに気づき、自ら回復の道を見出していくようです。連続しての参加希望も多くありました。

居場所では、同じような経験を持つ人が、集まって語り合い、集って同じ体験をする時間を持ち、お互いが元気になるグループ活動を行いました。

新型コロナウイルスの影響で大勢での集まりはできませんでしたが、「みんなの顔を見るのが楽しみ」、「一緒に何かできるのがうれしい」、とコロナ期もオープンしていたことが、孤立や不安の解消になったかと思えます。さらに新年度から就職した人もいて、次のステップアップの場にもなりました。

■利用者の声■

Kさん

ボランティアで一歩踏み出せたことをきっかけに最近パートで働き始めることができました。頑張りすぎる性格なので、心と身体をゆるめ、自分を大切にすることを思い出させてくれる貴重な場だと感じています。

WACCA塾

2020年度実績



ひとり親家庭の子どもたちのための無料の学習支援
毎週 火・水・金、小中学生を対象に実施しています。



みんなで楽しく実験！

～こんな体験しました～

- ◆2020年 7月19日「ママのためのクッキング」
- ◆2020年 8月 5日「実験教室」
- ◆2020年10月11日「リンゴ狩り」
- ◆2020年11月18日「親子で忍者」
- ◆2020年12月12日「クリスマスプレゼントお渡し

—子どもの生きる力を育みたい—

コロナ禍でのWACCA塾の活動は、子どもの学習を支援するだけでなく、休校や自粛生活でよりしんどさが増したシングルマザー家庭を支援する場面が多くなっていました。

母と子、両方を支援できるWACCAの強みを活かして、仕事を解雇されて経済的に困窮する家庭はWACCAのフードパントリーに繋ぎ、兄弟が多くて自宅で勉強することが難しい子どもには5月からWACCA塾を自習スペースとして開き、母親の病気や不登校など見守りが必要な家庭には子どもがWACCA塾に通ってくることで継続的な支援ができました。

家庭全体への支援を通して、子どもが学習面で困っている場合、能力や資質ではなく、家庭の環境が影響している場合が少なくないことが更にはっきりしてきました。子どもの生きる力を育む居場所として、さらなる課題に向き合った1年になりました。

■子どもたちの声■

Lさん

新しい友だちができました

Nさん

ボランティアさんに会うのが楽しい

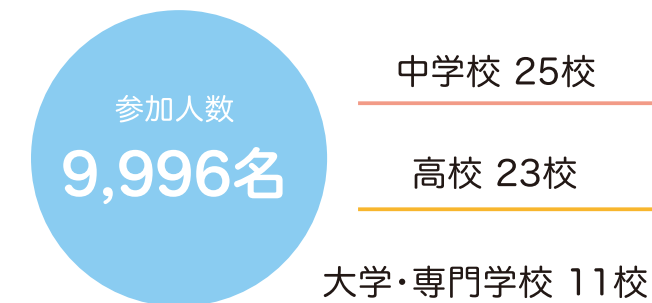
Mさん

ここに来たら宿題ができるから嬉しい



デートDV防止授業

2020年度実績



ウィメンズネット・こうべでは、これまでのDV被害者支援の経験を生かした実践的なデートDV防止授業を、小・中・高・大学生に実施しています。



—ウィメンズだからこそその授業を—

コロナ禍で各学校での授業日数は大幅に減っています。その為デートDVの授業を中止された学校もありますが、授業日数の減少に関わらず、密を避け学年を2グループに分けて授業をしたり、中学・高校でも大学のようにIT担当の先生がつきっきりで対応してくださり、各教室でのリモート授業で実施された学校もあります。また担当の先生が卒業前の3年生に是非受けさせたいと、授業の必要性を強く感じておられる様子が伝わる学校にも行かせていただきました。

「SDGs」「性的同意」等、授業内容も充実してきました。学校・地域差はありますが、学校からの希望で同性同士の劇の希望や、トランスジェンダー当事者のいる学校でのメッセージの伝え方、LGBTQを「デートDV防止授業」の内容に組み込んでほしいなど検討課題は多いです。

ウィメンズネット・こうべとしては、「暴力は何かを知る」「暴力を容認しない」「ジェンダー平等を子どもたちに教える」この3つを大切に、性の差に関わらず人として対等ということが大事で安心につながることを伝えて行きたいと思っています。

*当デートDV防止授業では、DVについての学び・理解を深めるために生徒参加型の劇を行います。

■参加者の声■

Oさん

けんかとDVのちがいが等において出てきた「対等な関係」というのはとても大事だと思いました。自分の気持ちをしっかり言葉にする力、「NO」を言う、「受け止める」ことを大事にしたいです。

Pさん

男らしさや女らしさではなく、自分らしさが大切だとよくわかりました。自分の長所をこれからはもっと出していこうと思いました。

Qさん

相手がイヤだ、怖いと思った時点でDVだということがわかった。最後におっしゃっていた、たとえ家族でも人と人の中には必ず境界線があるという言葉にすごく共感した。

2020年度 わたしたちのトピックス

受賞

- 第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞
- 公益財団法人社会貢献支援財団 奨励賞

ウィメンズネット・こうべの長年の活動がこのような形で認められたことを大変誇らしく思います。そして応援してくださった皆様、本当にありがとうございました。



業務改善

kintone(キントーン)導入しました！

今までの紙ベースの記録や情報共有に代わり、サイボウズのkintone(webデータベース)での記録管理を導入しました。その結果、今まで問題になっていたスタッフ間の情報共有がしやすくなり、ウィメンズネット・こうべの特徴である継続かつ長期的な支援が可視化されるようになりました。また、データを取り出しやすくなったので政策提言への可能性も見えてきました。



ファンドレイジング

神戸市「ふるさと納税」対象に選んでいただきました！

2020年10月19日～12月31日まで、神戸市のふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングを行っておりました。そして様々な方面からのご支援・ご協力を賜り、期限より一ヶ月も前に目標額300万円を達成することができました！



ウィメンズネット・こうべのあゆみ

- 1992年 男女平等社会の実現をめざす女性グループとして「ウィメンズネット・こうべ」を発足
- 1994年 「女たちの家」開設(阪神・淡路大震災により閉鎖)
- 1995年 阪神・淡路大震災発生
「女性支援ネットワーク」立ち上げ
「女性のための電話相談」開設
- 1996年 DVに関する学習会を開始
自助グループ「コスモスの会」発足
- 2001年 「DV被害者のためのサポーター養成講座」を開始
- 2002年 「DV被害者サポートライン(電話相談)」開設
兵庫県社会福祉協議会「元気アップアワード・グランプリ」受賞
- 2003年 ジョイセフ「加藤シズエ賞」受賞
コープこうべ「虹の賞・功労賞」受賞
- 2004年 女性と子どものための緊急一時保護施設(シェルター)開設
- 2007年 NPO法人格を取得 学校現場で「デートDV防止授業」を開始
「シングルマザー支援及び仲間づくり講座」を開始
- 2013年 女性と子どもの支援と仲間づくりのための居場所「WACCA」開設
困難を抱える女性の支援及びシングルマザーの子どもを対象に学習支援開始
「第6回 ゆめづくりまちづくり賞」受賞(国土交通省主催)
井植記念会より「井植文化賞」を受賞(社会福祉部門)
- 2015年 認定NPO法人資格取得
「子ども元気ネットワーク関西」発足
- 2016年 (公財)社会貢献支援財団より「社会貢献者表彰」を受賞
- 2017年 未来を強くする子育てプロジェクト「スミセイ未来賞」受賞
- 2018年 代表の正井禮子が2018年度「チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」を受賞
ソロプチミスト日本財団よりWACCAの活動に対して「社会ボランティア賞」受賞
- 2019年 兵庫県居住支援法人に指定される
令和元年国土交通省居住支援法人活動支援事業に選定される
- 2020年 WACCAb、及びステップハウス開設
「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」受賞
(公財)社会貢献支援財団より「奨励賞」受賞

2020年度 助成金、寄付金、物品援助をいただいた企業・団体の皆様

- H2O サンタ
- J-Coin 基金
- JAWK インターナショナル
- NHK 歳末助け合い
- TikTok 助成金
- ながとも基金
- ウィメンズアクションネットワーク
- ゴールドマン・サックス緊急子ども支援基金
- ジャミン合同会社
- パナソニック株式会社(市民社会創造ファンド)
- フィッシュファミリー財団
- マルナカセイカ
- 一般財団法人日本善意財団
- 株式会社 U(N) NEED
- 公益財団法人社会貢献支援財団
- 公益財団法人地域政策研究会
- 「貝原俊民美しい兵庫づくり賞」賞金
- 公益財団法人日工組社会安全財団
- 公益社団法人日本フィランソロピー協会
- 三井住友銀行ボランティア基金
- 三和パッキング工業株式会社
- 大阪ガス Social Design+応援支援金
- 子供の未来応援ネットワーク(福祉医療機構)
- 未来シフト株式会社
- 有園博子基金(継続助成2年目)
- P&G ジャパン
- 日本ロレアル株式会社
- イソップ・ジャパン株式会社
- 株式会社カーブスジャパン
- 認定NPO法人おてらおやつクラブ
- 生活協同組合コープこうべ
- 認定NPO法人フードバンク関西
- NPO法人フリーヘルプ

2020年度 会計報告

(2020年4月1日～2021年3月31日)

科目	前年度	当年度	増減
(1)経常収益			
受取会費			
正会員受取会費	200,000	210,000	
賛助会員受取会費	384,500	259,500	
受取会費計	584,500	469,500	80%
受取寄付金			
受取寄付金計	7,960,977	16,512,283	207%
受取助成金等			
受取助成金等計	16,431,727	31,956,710	194%
事業収益(委託料含む)			
事業収益計	9,202,033	17,171,311	187%
その他収益計	89,113	2,106,762	2364%
経常収益合計	34,268,350	68,216,566	199%
(2)経常費用			
事業費			
【人件費】	13,956,619	18,486,908	132%
【その他費用】			
謝金など	8,558,857	8,109,440	95%
消耗品費など	1,574,905	3,895,642	247%
水道光熱費	431,902	615,468	143%
支払地代家賃	3,653,095	5,334,407	146%
通信運搬費	342,653	695,186	203%
その他経費	1,030,990	2,295,826	223%
【その他費用計】	15,592,402	20,945,969	134%
事業費計	29,549,021	39,432,877	133%
管理費			
【人件費計】	776,160	983,296	127%
【その他費用計】	1,462,995	1,834,344	125%
管理費計	2,239,155	2,817,640	126%
経常費用合計	31,788,176	42,250,517	133%
当期経常増減額	2,480,174	25,966,049	1047%
(1)経常外収益			
経常外収益合計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用合計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期正味財産増減額	2,480,174	25,966,049	1047%
法人税、住民税及び事業税	122,000	122,000	0
当期正味財産増減額	2,358,174	25,844,049	1096%
前期繰越正味財産額	14,431,757	16,789,931	116%
次期繰越正味財産額	16,789,931	42,633,980	254%

より多くの方に賛助会員として一緒に支えていただければと考えており、賛助会員の増加に向けて頑張りたいと思います。

多くの方からご共感いただき、前年よりも多額の寄付金をいただきました。また企業からの大口寄付金もあるなど大幅な増収となりました。

コロナ禍により緊急助成が増加しました。

コロナ禍により神戸市委託による相談業務や兵庫県委託のDV支援事業が増加しています。

居住支援やひとり親家庭支援事業などの事業拡大に伴い、新しくスタッフも雇用しました。

新しくWACCAやステップハウスを2戸開設したため、費用が多くなりました。

2020年度は非常に有難いことに例年に比べて多額のご寄付や助成金をいただきました。それにより事業を拡大・充実させることができ、その結果、支援を必要としている方々により繋がることができました。他の災害時を振り返ってみても、新型コロナウイルス感染症による負の影響は、むしろこれから色濃くなるのではと予想されます。より良い支援活動には、皆様のお力が不可欠です。今後とも応援よろしく願いいたします！

活動をご支援ください

私たちへのご寄付は、寄付金控除などの税制上の優遇措置の対象になります

■オンライン決済



クレジットカードでウィメンズネット・こうべに直接ご寄付いただけます。継続寄付と都度寄付のコースがあり、1,000円からご支援いただけます。

■銀行振込

三井住友銀行 須磨支店(普通)3803910
名義人 NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ
※銀行振り込みでご寄付をいただける場合お手数ですが、お名前・ご住所を別途、メールあるいはFAXで必ずお知らせください。

■オンライン寄付「Give One」



クレジットカード、ネット銀行などで1000円から寄付ができるオンライン寄付サイトです。

■郵便振替

郵便振替口座：00990-3-330322
加入者名：女性と子ども支援センター

■遺贈(遺産の寄付)をお考えの方は、ご相談ください。

会員として 応援

正会員(個人) 1口 10,000円 総会の決議権あり
賛助会員(個人) 1口 3,500円 総会の決議権なし
賛助会員(団体) 1口 10,000円 総会の決議権なし

会費振込口座 郵便振替口座 00990-3-330322
加入者名 女性と子ども支援センター

※会費も寄付金の対象になります(正会員を除く)

私たちの活動の運営や維持を支援していただける会員を募集しています

物品で 応援

シェルター生活者やシングルマザーと子どもたちへの食品、日用品などの物品の提供をお願いします。物品の提供支援をお願いできる方は、事前に連絡をお願いします。(TEL 078-798-6150)

また、DV被害者が安心して日常生活に戻るために、安心できる住居(アパート・空家)や仕事をご提供ください。詳しくはお電話、メール、お問い合わせフォームのいずれかよりご連絡ください。

ボランティアも募集しています

お問い合わせはメールから
womens-net-kobe@nifty.com
年に1回ボランティア養成講座も開催しております。



応援メッセージいただきました



前田 裕保 様（生活協同組合コープこうべ 地域活動推進部）

「誰もが気付かぬうちにごくごく身近で不平等が起こっている」
フッと気付けば生きづらさを抱えたお母さんやお腹を空かせた子ども達。どう声を上げてよいのかわからないまま街のあちこちに溢れている。
生まれ育った家庭やさまざまな事情から、健やかな成長に必要な食事や生活環境、教育の機会が確保されていない子ども達がいる。
そんな現実を知ったときにウィメンズネット・こうべさんの活動と出会いました。
お一人お一人に寄り添いながら「必要な時に必要なモノを必要なだけ」お母さんたちにエールを送るように物資を届けられていたのです。
それはモノだけではありませんでした。真っすぐに相手を受け入れる温かな心、慈しみつづけながら想いを重ねていくその姿に心を打たれました。それ以来、ウィメンズネット・こうべさんと一緒にさせていただいています。
みなさんも子ども達の笑顔のためにウィメンズネット・こうべさんと一緒にしませんか。



吉岡 洋子 様（関西大学社会学部 教授）

女性や子ども達が晒されている貧困や暴力（DV、虐待）等の課題が、特にこのコロナ禍で顕在化しています。メディア報道を見て、自分も何か手助けしたい、もっと社会が支援すべきだ、といった思いに駆られた人は多いでしょう。
長年、日本では家族内の事情と見なされてきたこうした課題に、なんと約30年前、1990年代初めから取り組んできたパイオニアが、ウィメンズネットこうべさん（以下、ウィメンズ）です。目の前の女性や子どもに必要な支援や居場所を、制度になれば「作っちゃえ」と次々創出し続けてこられた先見の明とパワーに、圧倒されます。
私は、ウィメンズと出会うご縁を頂いて以来、こんな団体が日本に、神戸に存在してくれていて良かった！自分も少しでも一緒にしたい！という思いが増すばかりです。
例えば、WACCAでの学習支援の場に何うと、実にほっこりした居心地のいい雰囲気です。そこで支援者は、子どもも家庭も丸ごとを視野にいれた、声かけや相談、食料・物品の手渡し等もごく自然な形でされています。また、勉強だけでなく子どもたちの生活や将来を一生懸命考え、共に育もうとするボランティアの方々にも出会います。
小規模な団体ながら、多様な活動・支援メニューを展開するウィメンズが存在してこそ、寄付やボランティアで応援したい人の出番も生まれています。
日本全体としての子ども家庭福祉の制度や取り組みは、今、やっと拡充の方向にあります。その中で、ウィメンズが蓄積してきた経験と知見は、モデルとして大きく貢献できると確信しています。支援を必要としている子どもや女性、家庭は、地域の中にもっと大勢います。
ぜひ、あなたもウィメンズを応援する仲間になってください。

団体概要

名 称 認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ
設 立 1992年4月1日（団体設立日）
2007年4月2日（法人設立登記日）
2015年3月23日（認定NPO法人格取得）

代表理事 正井禮子

— おわりに —



私たちの活動をご理解、ご支援下さっている皆様へ、心より感謝申し上げます。
コロナの影響は大きく、スタッフ、ボランティアにとって大変な1年でした。忙しさは今2021年度も続いています・・・
DVの増加を予測し、昨年4月にメール相談を開始、シェルターも1か所増設。国のパイロット事業として、ステップハウス開設とWACCAでDV被害女性の中長期支援を行っています。
6月には神戸市の補助金を受け、シングルマザーのための居場所—WACCAb（フードパントリー併設）も開設。
日本のシェルターと違い、海外でのシェルターでは、場所の秘匿以外のルールはないとのこと。私たちも、当事者の人権を尊重するエンパワメント・シェルターをめざしています。そのためには、コミュニティの理解と支援、ジェンダー平等社会の実現が不可欠です。
DVやデートDV防止教育の実施、法律や制度を変えるための活動にも力を入れています。嬉しいニュースは、20代、30代の若いスタッフを雇用したことで、層の厚い団体となり、将来への展望が開けたことです。
今後ともご支援をお願い申し上げます。

代表理事 正井 禮子

認定NPO法人女性と子ども支援センター
ウィメンズネット・こうべ
E-mail: womens-net-kobe@nifty.com
TEL・FAX: 078-734-1308
<https://wn-kobe.or.jp/>



WACCA(わっか)
Email: wacca@mbr.nifty.com
TEL・FAX: 078-798-6150
<https://wacca27.wixsite.com/wacca>

